

令和6年度

境港市子ども・子育て会議 会議録

日 時 ◇ 令和6年7月31日（水） 19:00～20:10

場 所 ◇ 境港市保健相談センター講堂

出席委員◇ 委員9名（別添） （欠席4名）

傍聴者 ◇ 1名

会議書記◇ 子育て支援課児童係長 川田順子

(会長)

皆さんこんばんわ。

毎日暑いですね、今日も蒸し暑くて、暑い中こうしてお越しいただき、またお忙しいなか、お集まりいただきましてありがとうございます。

定刻より過ぎましたけども、ただいまより令和6年度第2回子ども・子育て会議を始めたいと思います。

開会に先立ちまして、境港市福祉保健部黒崎部長より一言ご挨拶いただきます。

(福祉保健部長) あいさつ

(会長)

それでは審議に入る前に、事務局より報告をお願いしたいと思います。

(事務局)

本日暑い中、またお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。
改めまして、事務局の方から自己紹介いたします。

(事務局) 自己紹介

(事務局)

また本日は傍聴希望の方が1名いらっしゃっておりますので、併せてご報告させていただきます。

*資料の確認

それでは本日の会議の成立につきましてご報告いたします。
境港市子ども・子育て会議設置要綱第6条、会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとあります。

本日、現時点で半数以上の方に出席していただいております。
出席9名ということで、本日はこの会議が成立することをご報告させていただきます。報告は以上です。

(会長)

はい。ありがとうございました。

それでは事務局よりまず配っていただいています。

次第を見てやってください。今日はですね、審議が一本です。
境港市子ども・子育て支援事業計画(第三期計画)事業・施策の検討についてです。
その検討の仕方、内容などについて、事務局より説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

本日実施させていただく審議は事業施策の検討についてです。
事前に郵送配布いたしました資料Ⅰは、現時点での境港市子ども・子育て支援事業計画（第三期計画）の第2章の3から第4章における事務局案となり、こちらにあらかじめ目を通していただき、委員の皆様より、いくつかご意見やご提案をいただきました。まとめたものが、本日配布した当日資料Ⅰになりますので、資料に沿って報告させていただきます。

次に当日資料2です、事務局側で検討が必要と思われる事項を集約し、まとめたものになります。本日は少人数のグループに分かれていただき、少しでも多く、皆さんの意見を頂戴したいと思っております。

当日資料Ⅰに沿って、いただいた意見や提案をご紹介させていただき、事務局における対応等を説明させていただきます。

*当日資料Ⅰ参照

次に、当日資料2をお願いします。2ページ目に、策定スケジュールについて改めて掲載しております。着色部分が、本日の第2回目の会議となります。

3ページ目は、国から示された策定にあたっての基本的な指針から、大まかにこちらで解釈したものを、まとめて記載しております。

本日、委員の皆様にご検討していただきたい部分が4ページ目以降です。

4ページに現状の課題を、集約し3つに絞ったところです。

1つ目に保育人材不足、2つ目に子育ての孤独化、子育てに対する心身の負担感の解消、仕事と子育ての両立、3つ目が子育てするなら境港のさらなる推進、子育て支援事業の認知度の向上とさせていただいております。

先ほども申し上げたとおり、今回初めての試みで、皆様に小グループを作っていただき、グループごとに検討事項について意見や提案をいただく方法を考えております。それぞれのグループに事務局が入らせていただき、進行と書記を行いたいと考えております。

協議に入る前に、検討事項について補足説明をさせていただきます。

資料の4ページに第1回目の会議でお伝えしましたアンケート結果などから見えてきた現状課題を3つに集約しております。

1つ目が人材不足で、年度途中で保育の受け皿が不足し待機が発生している主な要因となっております。

これに限らず、保育・子育てサービスの充実には保育人材の確保が必須となっております。5 ページ、検討1について、ページ右側に検討の参考を記載しておりますが、ここに書いてあることに限らず、人材を確保して、保育職場を支援するために必要だと思われる意見やアイデアをいただきたいと考えております。

また、5 ページの下に市の新規事業を掲載しております。今年度から保育体制の強化を図る事業を実施いたします。簡単に説明すると、保育士資格等を持たない、地域の人材を活用し、保育士等の負担を軽減して、より保育環境を向上させるという事業になります。

こちらは私立園が、保育士免許等を持っておられない方を保育環境等向上のために雇い入れた人件費を、市から補助するという形の事業となっております。

次に6 ページ目、検討事項の2つ目です。

核家族化による子育ての孤独化や負担感について、また仕事と子育ての両立について、今後一層取り組む必要があると考えており、こちらについても、右の欄の方に具体的な支援、視点等挙げております。子育てと仕事の両立を支援するために、児童クラブの充実を求める意見も委員の方からもいただいております、その他につきましても皆様から意見や提案をお願いしたいと思っております。

6 ページの下方に参考として「こども誰でも通園制度」を記載しておりますが、こちらが生後半年から3歳未満のお子様を家で、みておられるお母さんやお父さんが、少しリフレッシュをしたいとか、自分のことで病院に行きたいとか、そういったときに1時間単位で預けることのできる制度になります。

こちらについて、現在、日本全国でモデル事業に取り組む市町村もあるのですが、令和8年度からは、全自治体で事業を開始する方針を国が示しております。

次に、検討の3つ目。7 ページをお願いします。

アンケート調査結果から本市の子育て支援事業として、認知度が低い事業が散見されております。資料8 ページの方に掲載しているものが認知度50%以下だった事業です。子育て世帯に限らず、広く周知を図る必要性を感じております。

事務局で考えている、母子手帳アプリのすくナビを利用する以外にも、周知方法について検討していきたいと考えておりますので、アイデアを頂戴できたらと思います。加えて、本市が標榜しております、子育てするなら境港、こちらをさらに推進するためにどのような事業を見直したらよいか。どのような施策が必要か。

そういったご提案もこちらの検討3でいただけたら考えております。

9 ページに、検討4を設けております。

こちらについては、3つの検討事項以外に、何でも構いませんので、境港市の子育て支援策等にご意見やご提案があれば検討4でお願いします。

最後10 ページの方に参考資料として、県のシン・子育て王国とっとり計画の概

要を掲載しております。この計画に基づき、具体的な方法として、右側にある事業の実施を計画されています。

今後、本市においても、こども計画を策定していくことになりますので、参考にお目通しをいただけたらと考えております。

1から4の検討事項につきまして、1つにつき大体5分程度、進行係の方で時間を区切りまして、最終午後7時45分をめどに、協議終了したいと考えております。協議終了後、事務局の書記がグループ内で出た意見の紹介を行いたいと思います。説明は以上です。

(会長)

はい。ありがとうございました。

たくさんあった項目の中から、市のほうでこれが大事、重要だという事業の中で、皆さんのご意見を聞きたいということがあがってきておりますが、今までは全体で審議して、なかなか意見が出ないということもたくさんあったと思います。

今回、小グループになって、日頃感じておられるとか、今説明を聞いて、思われたことを自由に発言されたいと思っております。

どれも、重たい問題ばかりだと思いますが、時間も限られていますが、いろいろ意見を出していただけたらと思います。

では、45分が目途だそうですので、またその辺の判断は事務局に従ってください。

＊4つのグループに分かれて審議

(事務局)

時間になりましたので、グループでの検討を終了させていただきます。

(事務局) Aグループ

グループで出た意見や提案を紹介させていただきます。

こちらは保育園、幼稚園等の施設長から構成されたグループです。発表させていただきたいと思います。

まず1つ目の保育人材不足につきまして、出た意見を紹介します。

職員が独身だったら、保育士への家賃手当を出したらどうかというご意見、学生さんが県外から地元に戻りたいと思える職場環境、そういった魅力を発信し、都会との賃金の差を、何かしら市や県の補助を受けて、上乗せをする。また、田舎だとやっぱり出勤に車が必要であることも地域の特性だと考えるため、マイカー手当、そういったものを考えてみてはどうか。

マイカー手当については、保育事業だけではなく、その他の社会福祉事業についても、そういった地域ならではの手当や助成、車の購入補助だとかを考えたらどうでし

ようかという意見が出ました。

2つ目の検討2、こちらにつきましても、やはり支援を充実させるためにはマンパワーが必要であって、保育士、幼稚園教諭などのマンパワーが必要との意見がでました。まずは人材、先ほどの検討1の事項に繋がる職員確保というところが、いろいろな子育て支援事業を充実するために必要になってくるという意見がでました。

私立園の運営側としては、少子化が加速し、法人の経営に先が見通せないような状況にあるため、前向きに取り組めるような、運営費用面での支援、保育事業に対する十分な予算を確保が必要であり、せっかく良い支援をしたいと思っても、運営ができなくなるようでは事業実施できないし、スタート地点に立てないので、地域の子育てを担う、施設についての支援をしっかりと考えていただく必要があるという話が出ました。

検討3につきまして、あまり時間を取れなかったのですが、子育てはやはり家庭だけじゃなくて、こういった、保育園だとかそういったところの支援が必要となってくるので、そういった事業者を大切に作る施策が必要であり、市だけでは取り組めないことなので、そういった部分を充実していく必要があるという意見が出ました。

検討4はおこなっていません。

（事務局）Bグループ

こちらでは、検討1保育人材不足に関しては、潜在保育士というのが、やっぱり多いのではじゃないかという意見がでました。責任が重い仕事に対し、賃金面や職務面で保障されていないから、なかなか働きたいと思う人が増えないのではないかなという意見がありました。

それから、働きたい園のことを知りたいのではないかとということで、現場保育士の生の声であったり、園のPRポイント、そういったものを、ホームページなど、そういったところでわかるようにすれば、もっと働きたいなという人が増えるんじゃないかという意見が出ました。

検討2、子育ての孤立化のことについて、なかなか親に頼ることができない時代になってきたってということで、ファミリーサポートセンターのような事業を充実させたらどうかと意見や元気なお年寄りも多いということで、公民館とか、地域コミュニティの場所で、子育て講演会とか、そういった、イベントをやりながら、公民館単位で例えばモデル地区を決めて、活動を広げるようなこともやってみたらどうかという意見が出ました。

それから検討3です。子育てするなら境港の推進のところは時間がなかったのですが、子育て支援事業の認知度の向上というところで、市のホームページがなかなか見ても面白い内容でもない、わかりにくいというようなことで、インスタとか、そういったSNSツールを使って、わかりやすく若者にも情報発信をしたらどうかという意見が出ました。

検討4は時間がありませんでした。

以上でございます。

（事務局）C グループ

こちらのグループでは、検討Ⅰ保育人材不足について、公立保育園の先生方の産休育休は代わりの先生がおられてサポートされているようなイメージがあるので、そこをもうちょっとPRして職場環境が整っているところをPRしてはどうかという、話がありました。ただ他の園については、毎年、先生が辞められたり、採用するのに苦労されているイメージが強いという話が出ました。

時間が限られていたり、求職者の希望と合わないイメージがあるので、収入面を含めて求職者の希望と合うようになるというのではという話が出ました。

また、児童クラブについても普段の勤務時間が限られており、夏休みだけは1日就労というところも、勤務する上で難しいのではないかという意見が出ていました。

検討2についてですが、小学校に上がったときに、保育園から上がってくる子どもと、幼稚園から上がってくる子どもとの保護者の繋がりをもう少し事前に関係づくりができるといいという意見が出ました。年長のときに、保育園、幼稚園など別の園の保護者同士で何度か顔を合わせるような機会があるといいという意見が出ました。また、孤立化について、ひとり親の方が相談できる窓口は色々あって、紹介もされているとは思いますが、そこへの行きやすさだとか、相談しやすさも含めて、紹介されるといいのではないかという意見が出ました。

また、児童クラブの質について、どうやって高めていけばいいだろうかという話題が出たのですが、市内に民営の児童クラブが新設されたという話が出まして、そこは人気があるということでした。

検討3以降については時間が来てしまいここまでになりました。

（事務局）D グループ

こちらのグループで出た意見です。保育士人材不足につきまして、業務の見直しが必要ではないかということで、イベントとか、すべて保育士が飾り付けですとか、そういうことを準備されているのではないかと。そのあたりについては外注であったり、保育士でなくてもできるじゃないかという意見が出ました。

それを踏まえ、令和6年からの新規事業である保育体制の強化を図る事業っていうところはもっとPRしたほうがいいのではないかという話も出ました。

また、短大や専門学校の生徒にどんどん来ていただいて、保育園を手伝っていただく、特に夏休みとかに来ていただけると両方にとって良い関係性ができるのではないかという話も出ました。

また、アプリなどを作り、保育士資格のある方に登録していただいて隙間時間に保育に入っていただく、1時間、2時間でも入っていただくような取り組みをしてみたらいいのではないかという意見が出ています。

検討2につきましては、仕事復帰をする際に実際に復帰された方の体験談ですとか、どんな子育て支援サービスがあり、いつから復帰準備をしたらいいかというところでコンシェルジュのような制度を作ってみたらいいという意見、孤独化している人に対してのアプローチの仕方が課題であり、全体的に対するアプローチと、個に応じた、アプローチが必要ではないかという意見がありました。

孤独化している方に対してのアプローチの仕方は難しく、時間もかかるだろうし、心を開いてくださるまで、少しずつ頑張るしかないという話が出ました。

検討3につきまして、時間をあまり取れなかったですが、今色々な場所があるので、困ってからではなくて、普段から行ける場所があるといいという話がでました。困ってから行くという場所になると、どうしてもハードルが高くなるため、何気に行けるような場所があるといいという意見がでました。

検討4については時間がなく、話ができておりません。

（事務局）

ありがとうございます。短い時間ではありましたが、たくさんご意見やご提案、予想もできなかったアイデアをありがとうございます。

今回いただいたことすべてを網羅できるわけではないかもしれませんが、事務局にて事業施策の検討を行い、事業担当課にはもちろん共有を図った上で、より充実した施策となるよう、第三期に盛り込んで進めていきたいと考えております。

本日の審議の内容を、事前送付していましたが素案に可能な部分に反映させ、まとめたものを、委員の皆様へ送付いたしまして、改めて確認していただきます。

確認後のご意見は、こちらの方で再度検討して修正を行います。

正式な素案として議会に報告しパブリックコメントを行います。今回パブリックコメントの際に、高校生や中学生、小学生にもコメントいただくような取り組みを検討しておりまして、それぞれパブリックコメントの段階で、一般用と子ども用をそれぞれ委員の皆様にも見ていただきたいと思いますと考えております。

そうですね、本日の会議内容を反映したものを、8月中旬ごろ、パブリックコメント用は、議会報告を経て、9月に送付させていただきたいと考えております。

まずは、8月に送られてきた素案を確認していただき、ご意見があればお願いします。事務局の方からは以上です。

（会長）

はい。皆さんお疲れ様でした。

時間的に短かったですがいろんな意見が出て、検討3まで時間が足りないところもありましたが、いろいろ意見が出てよかったのではないかと思います。なかなか難しい問題で、これでバシッと決まりというふうにはならないんですけども、参考にして素案を立てていただけたらと思っています。

皆さん今日はお疲れ様でした。
気をつけてお帰りください。

（事務局）

次回、議会報告やパブリックコメントが終わってから、10月30日の水曜日に今年度第3回子ども・子育て会議を開催予定としております。

また案内の方は送りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
ありがとうございました。

境港市子ども・子育て会議 委員名簿

令和6年7月31日

	選 出 区 分	氏 名	ふりがな	備 考	
	子どもの保護者	江尻 浩介	えじり こうすけ	小学校PTA連合会会長	
	子どもの保護者	田中亜沙実	たなか あさみ	保育園保護者会連合会会長	欠席
	子どもの保護者	金田 里美	かねだ さとみ	聖心幼稚園PTA会長	
副会長	子ども・子育て支援に従事する職員	柏木 克仁	かしわざい かつひと	境港市保育協議会副会長	
	子ども・子育て支援に従事する職員	遠藤 美和	えんどう みわ	美哉幼稚園園長	欠席
	子ども・子育て支援に従事する職員	荒井 利恵	あらい りえ	企業主導型保育施設園長	
	学識経験者	細田 淑人	ほそだ よしと	境港医師協会 竜ヶ山こどもファミリークリニック院長	
	学識経験者	景山 良恵	かげやま よしえ	境港市読み聞かせ団体 境港親と子どもの劇場代表	
	学識経験者	池淵 菜美	いけぶち なみ	こども未来ネットワーク代表	欠席
	学識経験者	竹内美智子	たけうち みちこ	NPO法人陽なた所長	
会長	学識経験者	嘉賀 収司	かが しゅうじ	境港市民図書館館長	
	公募委員	宮本 剛志	みやもと つよし	元芝浦工業大学非常勤講師	
	公募委員	舩岡 彩子	ますおか さいこ	境港市学校指導補助員	欠席

※I 敬称は、略しています。

【事務局】

境港市福祉保健部長	黒崎 享
境港市健康づくり推進課長	足立 統
境港市教育総務課長	角 純也
境港市子育て支援課長	池淵 賢自
境港市子育て支援課児童係長	川田 順子
境港市子育て支援課主任	盛岡智佳子